



縮約がもたらす構文の意味的・機能的変化 : 言語コーパスに基づく there is/there's 構文の研究

今道, 晴彦
石川, 慎一郎

(Citation)

神戸大学国際コミュニケーションセンター論集, 3:15-36

(Issue Date)

2006

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLDOI)

<https://doi.org/10.24546/00519045>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00519045>



縮約がもたらす構文の意味的・機能的変化

—言語コーパスに基づくthere is／there's 構文の研究—

今道 晴彦¹

石川 慎一郎²

1. はじめに

話し言葉やくだけた文章に特徴的に見られる言語現象のひとつに縮約(contraction)がある。典型的な例として、代名詞やbe動詞などによって形成される縮約形(cf. I'm, It's, there's)が挙げられるが、これらは、構文の表層構造の形態的变化であって、こうした形態的变化を、意味構造に影響を及ぼしうる本質的言語事象としてとらえることは少ない。

しかし、近年盛んになってきたコーパス言語学は、大規模のデータを計量的に処理することによって、「形が変われば意味も変わる」という言語の基本的特性を明らかにした。この観点からすると、縮約現象においても、形態的变化が、やはり、なんらかの意味的・機能的変化をもたらしている可能性がある。

以下、本稿では、there isの縮約形であるthere'sを例にとり、形態的变化がいかなる意味的・機能的変化をもたらしているかを質的・量的に考察し、EFL(English as a Foreign Language)の観点から幾つかの提案を試みてみたいと思う。

2. 先行研究

縮約現象に関する文法的な取り扱いが極めて限定されたものであるといえる。たとえば、代表的なEFL文法書であるGreenbaum and Quirk(1990)においては、動詞、助動詞の縮約形が挙げられ、話し言葉のみならず書き言葉においても認められているとしているが、それは注の中でのわずかな記述でしかない。また、Swan(2005)においては3ページの紙面が割かれているものの、記載の半分以上が縮約形のパターンリストで、ここでもわずかな数行足らずの中に当該形式はフォーマルなところでは一般的ではないという記述があるだけである。筆者の知る限り、その他の多くの文法書においても同様のことが言え、縮約されることでどのような質的な変化が見られるのかについて議論を深めた考察は見当たらない。

たとえば、文法書や研究書におけるthere is／there'sの扱いを概観しても、there is構文の例文としてthere is型とthere's型を分け隔てなく使用するなど、フォーマルかインフォーマルかの違いを別にすれば両者の質的な差はほとんど考慮されていない。以下は、there is構文の解説中で、特段の注記なく、there's型が使用さ

¹ 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程. harima7@gmail.com

² 神戸大学国際コミュニケーションセンター／総合人間科学研究科. iskwhin@kobe-u.ac.jp

れている一例である。

- (1) a. There's a hole in my tight. (Swan 2005:587)
- b. There's two policemen at the door, Dad. (Ibid.)
- c. There's someone on the phone for you. (CALD)
- d. There's a duck on my desk. (Milsark 1979:18)
- e. Across the street there's a grocery. (Bolinger 1977:93)

これらの例文は母語話者によって提示されたものであり、それ自体としては刻印付きの例文である。しかし、これらの *there's* 型構文がそのまま正当な *there is* 構文の例となりうるかどうかについては、慎重な判断が必要となる。

3. 本研究の目的と方法

以下、本研究においては、*there is* 構文における *there is* 型と *there's* 型の質的な差を明らかにすることを目指す。このことは先行の語法研究および EFL 教育において、*there is* 型と *there's* 型とが同等に扱われている現状を批判的に見直す契機となろう。

まず、*there is* と *there's* の差別化を行うにあたって、コーパスを用いてそれぞれが共起しうる名詞の意味的特徴を検証する。使用コーパスとしては、バランスの取れた大型のイギリス英語データベースである BNC (British National Corpus: <http://view.byu.edu/>) を利用する。次に、それぞれの意味的特徴を明確にするにあたって、動詞の時制および数に応じて *there is*, *there was*, *there are*, *there were*, *there's*, *there're* の 6 つのパターンを考察対象に絞る。さらに、文法的定性との関連を見るため、これらの構文がとる冠詞類として不定冠詞 *a*, 定冠詞 *the*, 無冠詞 \emptyset の 3 パターンを挙げ、とりわけ定冠詞、無冠詞については、共起する名詞の単複の違いにも着目することで、その用例および頻度について分析する³。そして、*there is* が特異な振る舞いを見せることを指摘することで、*there's* との違いを明確にしたい。

4. 実例分析その 1 (基本形)

4.1 冠詞類の頻度

本節で検証するのは、縮約されていない通常の構文である。まず、どのような冠詞類が生起し、それらが頻度の面でどういう関係にあるのか明確にしたいと思う。以下の表は、動詞の時制および数別に分類した 4 タイプの *there* 存在文において、最も多くヒットした冠詞類を順に並べたものである。さらに、無冠詞、定冠詞と共起する名詞に関しては単複別に分けて記してみた⁴。括弧内の数値は、個々の構文全体の頻度で割った冠詞類の出現率を表すものとする。

³ なお、本論文では議論を明確にするため、*be* 動詞、冠詞類、名詞の順にヒットする構文のみを考察対象とし、*be* 動詞と冠詞類の間に、あるいは、冠詞類と名詞の間に、他の要素が入るような構文は考察の対象としていない。

⁴ 断わりのない限り、本論文では定冠詞 *the* および無冠詞 \emptyset に後続する名詞 (BNC では [NN*] と表記される。) については、単数名詞 ([NN1] と表記)、複数名詞 ([NN2] と表記)、集合名詞 (cf. *people*, *data*, *fish*, *staff* etc.) から成り立つものを基本とし、その分類は BNC に依拠するものとする。

表 1. there 存在文における冠詞類の出現状況

is		was		are		were	
不定冠詞	15176 (26.0%)	不定冠詞	14268 (28.8%)	無冠詞	3562 (8.9%)	無冠詞	2026 (9.5%)
無冠詞	1756 (3.0%)	無冠詞	1446 (2.9%)	不定冠詞	1942 (4.8%)	不定冠詞	891 (4.1%)
定冠詞	1553 (2.6%)	定冠詞	1382 (2.7%)	定冠詞	424 (1.0%)	定冠詞	317 (1.4%)
合計	58353 (100%)		49417 (100%)		40007 (100%)		21244 (100%)

この表から当該構文では各々が単独に個別の特徴を有しているのではないことがわかる。つまり、動詞の数との結びつきで一定の共通性を共有しているのがわかる。すなわち、冠詞類の出現率に共通性が認められるという点で、there isとthere wasはペアになり、there areはthere wereと組になっている。まず、単数形のthere is／there wasを見てみると、不定冠詞が一番多く、26.0~28.8%の出現率を示しているのに対し、複数形のthere are／there wereでは、無冠詞が8.9~9.5%の確率で最も多くヒットおり、それぞれ1位と2位が入れ替わっている⁵。そして、従来からの指摘にもある通り、定冠詞の出現が認められ、冠詞類の中では最も頻度が低いという結果が出た。このことから動詞の数が単数から複数になっても、文法的な不定性が優先されているのがわかる。ただし、there is／there wasの定冠詞に関しては、there are／there wereに比べて無冠詞との差が微妙である。有意差検定をしてみると、there isではp値が0.228<0.5で有意であるが、there wasではp値は0.0004<0.01で、統計上では有意差がないことになる。ここではthere is／there wasになると出現率において定冠詞が無冠詞に接近するほどの確率で生起しているという事実だけを踏まえておきたい。

また、there is／there wasはその基本的特徴として単数名詞と一致するのが通例であるが、無冠詞、定冠詞においては、複数名詞を選択する例が若干見られた。次に単複別の出現状況を表とグラフで挙げる。これにより、定冠詞より無冠詞において、さらにthere isよりthere wasにおいて複数名詞との共起が認められる。

表 2. 複数名詞の出現状況

	is	was
無冠詞 ϕ +sg.	1756	1428
無冠詞 ϕ +pl.	35	129
定冠詞 the+sg.	628	356
定冠詞 the+pl.	5	23

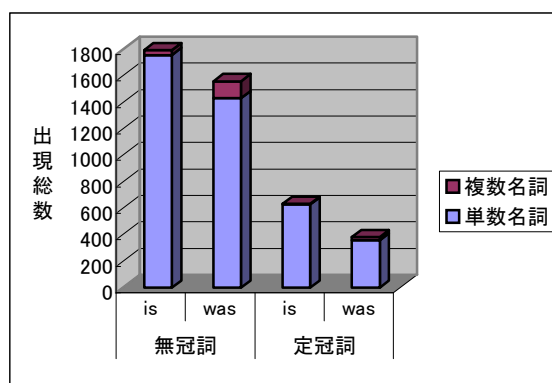


図 1. 複数名詞の出現状況

4.2 名詞の出現頻度

次に、以上で挙げた冠詞類がどのような名詞と共起し、動詞の数および時制に応じてどのような振る舞いを

⁵ しかし、an や否定の不定冠詞 no を含めると、「不定冠詞」、「無冠詞」、「定冠詞」の順になる。

見せるのか、その用例と頻度の分析を行う。以下のデータは、上位 100 位までのうち 10 位までを例としてリストアップしたものである。50 位までのデータについては補足資料を参照されたい。

表 3. 不定冠詞の共起語検索結果

不定冠詞	there is a [NN*]		there was a [NN*]		there are a [NN*]		there were a [NN*]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	NEED	337	LOT	344	NUMBER	883	NUMBER	167
2	DANGER	230	TIME	173	LOT	282	LOT	151
3	LOT	201	PAUSE	170	COUPLE	59	COUPLE	59
4	TENDENCY	163	SILENCE	147	VARIETY	58	SERIES	11
5	DIFFERENCE	147	MAN	126	RANGE	25	VARIETY	5
6	PROBLEM	132	NEED	104	SERIES	12	TOTAL	4
7	SENSE	127	KNOCK	102	HOST	8	SON	4
8	RISK	108	MOMENT	100	TOTAL	7	WOMAN	3
9	POSSIBILITY	99	BIT	61	MULTITUDE	6	RANGE	3
10	CASE	76	FEELING	61	HANDFUL	6	CHOICE	2

表 4. 無冠詞の共起語検索結果

無冠詞	there is [NN*]		there was [NN*]		there are [NN*]		there were [NN*]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	EVIDENCE	480	SILENCE	190	PEOPLE	261	TIMES	160
2	ROOM	123	EVIDENCE	137	TIMES	256	REPORTS	129
3	SCOPE	76	BLOOD	65	PROBLEMS	168	PEOPLE	115
4	CONCERN	60	TALK	60	OTHERS	166	SIGNS	99
5	TIME	45	ROOM	52	SIGNS	133	PROBLEMS	83
6	TALK	45	TIME	46	THINGS	121	OTHERS	78
7	HOPE	38	TROUBLE	46	WAYS	166	TEARS	71
8	REASON	36	SPECULATION	41	PLANS	101	THINGS	58
9	PRESSURE	34	CONCERN	36	DIFFERENCES	99	FEARS	56
10	AGREEMENT	32	MONEY	30	EXCEPTIONS	85	RUMOURS	48

表 5. 無冠詞(pl.)の共起語検索結果

無冠詞pl.	there is [NN2]		there was [NN2]		there are [NN2]		there were [NN2]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	MASSES	3	LOADS	14	TIMES	256	TIMES	160
2	PROBLEMS	2	PROBLEMS	3	PROBLEMS	168	REPORTS	129
3	THINGS	2	WOMEN	3	OTHERS	166	SIGNS	99
4	URNS	1	MEN	3	SIGNS	133	PROBLEMS	83
5	TOTES	1	KIDS	3	THINGS	121	OTHERS	78
6	TIMES	1	HOUSES	3	WAYS	116	TEARS	71
7	TEARS	1	CARS	2	PLANS	101	THINGS	58
8	SECTIONS	1	CAMPS	2	DIFFERENCES	99	FEARS	56
9	RUMOURS	1	GUNS	2	EXCEPTIONS	85	RUMOURS	48
10	ROBBERS	1	CLOTHES	2	OCCASIONS	76	MOMENTS	40

表 6. 定冠詞の共起語検索結果

定冠詞	there is the [NN*]		there was the [NN*]		there are the [NN*]		there were the [NN*]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	POSSIBILITY	82	SOUND	55	REMAINS	8	PEOPLE	4
2	QUESTION	67	TIME	13	PROBLEMS	5	CHILDREN	4
3	PROBLEM	46	POSSIBILITY	12	PEOPLE	4	BEGINNINGS	3
4	ISSUE	23	PROBLEM	12	CHANGES	3	HEADS	2
5	PROSPECT	20	MAN	10	BENEFITS	3	ANIMALS	2
6	DANGER	19	SMELL	10	PICTURES	3	MILLS	2
7	NEED	18	MATTER	8	CASH	2	PHOTOGRAPHS	2
8	FACT	17	QUESTION	8	CASES	2	REGIONS	2
9	OPPORTUNITY	17	BUSINESS	6	BANKS	2	NAMES	2
10	RISK	15	FACT	6	CHALETS	2	STORIES	2

表 7. 定冠詞(pl.)の共起語検索結果

定冠詞pl.	there is the [NN2]		there was the [NN2]		there are the [NN2]		there were the [NN2]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	TIMES	1	MASTERS	2	REMAINS	8	CHILDREN	4
2	SYMBOLS	1	REMAINS	2	PROBLEMS	5	BEGINNINGS	3
3	REDUCTIONS	1	BEGINNINGS	2	CHANGES	3	HEADS	2
4	MEETINGS	1	WOMEN	1	PICTURES	3	MILLS	2
5	ASHES	1	SWINGS	1	BENEFITS	3	PHOTOGRAPHS	2
6			SEARCHLIGHTS	1	CASES	2	ANIMALS	2
7			BEDS	1	BANKS	2	NAMES	2
8			RECORDS	1	CHALETs	2	REGIONS	2
9			POLICE	1	DIFFICULTIES	2	STORIES	2
10			PARENTS	1	FACILITIES	2	WORDS	2

4.3 検索結果の分析

収集したデータを見渡したときにまず目につくことは、当該構文全体においては、具体性のある名詞よりも抽象性のある名詞が圧倒的に多く出現するということである。とりわけ、全体として最もヒット数の多い **there is** では、上位 100 位以内においてもまったく具体性の高い名詞が見られず、その殆どは、**need, danger, evidence, question, problem, possibility, difference** などの抽象性の高い名詞である。

しかし、動詞の時制や数が変わることで **man, people, children** などの人を表す名詞が出現し始め、さらにわずかながら **car(s), book(s)** などの具体名詞との共起が認められた。

ただし **there was** に関しては、共起する名詞が単数名詞から複数名詞に変わること、具体性のある名詞（本稿では網掛けで表示）と共起することがわかった。今回の調査対象の中で具体性のある名詞と共起する率が最も高かったのは、無冠詞の複数名詞を取る用例であった。これについては、そもそも低い出現数を示すにもかかわらず、極めて高い確率で具体性のある名詞と共起していることになる。また逆にいうと、極めて高い確率で抽象性の高い名詞と共起していないことになる。

以上の結果をまとめると、当該構文全体としては、抽象性に高い名詞の出現が目立ち、意味的にも不定的な要素が好んで選択される点が伺える。その中で抽象性の高い名詞との最も共起したのは、**there is** で、具体性のある名詞と共起したのは、**there was** の無冠詞の複数名詞を取る用法であった。

4.4 検索結果の考察

このような結果から、①なぜ **there** 存在文全体において具体性のある名詞が現れにくく、抽象性の高いものが多いのか、②なぜ **there is** においては上位 100 位内に具体性のある名詞が現れず、抽象的な名詞ばかりが容認されたのか、③なぜ動詞の時制や数を変えることによって、人を表す名詞や具体性のある名詞が見られるようになるのか、④なぜ **there was** において具体性のある名詞が複数名詞として出現するのか、という疑問が生じるように思う。以下、この疑問について考えてみたい。

まず、①については、**there** が有する不定性、不確定性によって説明がつくように思う。先行の語法研究やその他の文法書が指摘する通り、当該構文はある不確定な事柄を述べる際に用いられ、表 1 の結果が示すように、冠詞類は不定冠詞が最も多く出現している。しかし、この不定性、不確定性は、文法的指標において実現されているだけではなく、語の意味のレベルにまで及んでいると考えられる。語のレベルは意味に関わる限りにおいて、抽象性の高い名詞の出現は、意味レベルでの抽象性が反映された構文であると理解できる。したがって、意味レベルでの抽象性は、曖昧で限定的でなく、不明瞭なイメージと結びつくために、不定性、不確定性を連想させ、文法レベルのみならず、意味レベルにおいてもこのことが徹底されていると考えられる。

そのため限定的で具体的な事柄は、当該構文では話題になりにくく、直接的でない抽象的な名詞が頻繁に認められるものと考えられる。

また、②の疑問については、**is, was, are, were** という動詞の形態がもつ特性が関係しているものと考えられる。つまり動詞の時制が現在から過去に、また数が単数から複数になることで、**Bolinger (1977:113)**のいうような「場面設定(staging)」が施されていると考えられる。**Bolinger (1977)**に従えば、**there** 存在文における **there** とは、場面設定としての働きを担う文法的手段を意味する。この場面設定によって、聞き手にとって未知で、唐突過ぎる話題であっても、**there** を付け加えることで、環境が整い、その話題を意識にもたらすことができる。

しかし、この場面設定は **there** だけではとどまらないのではないかというのが本稿の主張である。つまり、**there** と共起する、この **was, are, were** という動詞の形態もまた、同じように更なる場面設定の手段であると考えたい。その限りにおいて、**is** は場面を設定する際の起点になり、**was, are, were** は設定される場面になる。同時に、**is** は話し手のみが有する「今・ここ」の視点を表すことになり、この疑問に対するひとつの解答が導き出せるように思う。

今述べたように、**there** でもって聞き手である相手の意識を喚起することが可能になるわけだが、**there is** という形式は、聞き手の意識を「現在」の位置にもってくるということである。ただ、この「現在」の位置とは、単に時間的な現在を意味するだけではない。いわば、話し手にとっての「今」を表す。この話し手にとっての「今」とは、話し手のみが所有し、話し手自身が実感できる「今」であって、他者はそれを実感できない。たとえ **there** でもって聞き手の意識をその「今」の位置にもってきたところで、あるのは意識だけで、実感ではない。**is** は、まさにその実感が不可欠な場所である。その限り、実感が必要な場所に実感できないようなものをもってくることはできない。具体性のある名詞は、その実感が必要である。というのも、それはリアルで、明晰なイメージを有しているからに他ならない。それゆえ、具体性のある名詞は、話し手にとってリアルでも、聞き手にとってはリアルではなく、実感以前に唐突感があり、**is** という話し手の実感が必要な場所では馴染みにくい。「あることがリアルである、明晰である」ということは、他方で、その逆接を含意している。それは、リアルさ、明晰さが即座に共有できるものではなく、ある人にとってはリアルでも、別の人にとってはリアルではないという当たり前の事実起因している。その反面、抽象性の高い名詞は不確定なイメージが付きまとうために、むしろ、聞き手自身も共有しやすく、リアルさが欠け、唐突感なく実感できる。したがって、**there is** では上位 100 位以内でも具体性のある名詞の生起が容認されず、かわりに抽象性の高い名詞が好まれるものと考えられる。

しかし以上の説明は、なぜ動詞の時制や数を変えることによって、人を表す名詞や具体性のある名詞が見られるようになるのかという③の疑問についても当てはまるように思う。まず、時制が **is** ではなく、**was** であるときに具体性のある名詞が現れるというのは、今述べたように、時制が「現在」から「過去」に場面設定されているためだと考えられる。

また、**is** と **was** の違いが時間概念の違いだけでなかったように、**is** と **are** の違いも単なる動詞の数による違いだけではない。単数の **is** から複数の **are** に変わることによって、意味的な環境も変わってくる。ここでも **is** はリアルな場所であり、**are** になることでそのリアルさが緩和される。それによって、具体性のある名詞(実際はその殆どが人を表す名詞)が出現しやすくなるのではないかと考えられる。たとえば、**is** から **are** に変わることによって、どのようにリアルさがなくなっていくのか、英語の時間名詞である **day, time** を例にとってこの問題を考えてみたい。もちろん、これらの例は名詞であって、動詞ではない。しかし、**there** 存在文では一般に名詞の数が動詞の数と一致する以上、名詞の数の違いはそのまま動詞の数の違いに繋がる。

これらの名詞は、単数の場合、それぞれ「日」、「時間」を表す。この「日」ないし「時間」は、その長短の違いに関わりなく、時間軸上に定められる点として捉えられる。しかし、これらの名詞が「単数」から「複数」に変わることによって、時間軸上の点としての枠組みが和らぎ、新たな意味の拡張が生じる。たとえば、"the days of Queen Elizabeth"や"Victorian times"というように複数になることで、これらの名詞は「時代」という意味を獲得する。その時、この「時代」というのは、もはや時間軸上に定められる一点というよりは、ある一定の「時間幅」をもつ概念である。その結果、一定の幅をもつものとして捉えられることで、あるイベントとしての解釈が生まれる。つまり、day (日)や time (時間)が束のように複数個集まることで、さらなるイベントが生じることになる。したがって、当該構文では、名詞の数の違いが基本的に動詞の一致に反映されている限り、元々の枠組みが和らぐという特徴がそのまま保持されていると考えられ、具体性のある名詞であってもその出現が認められるようになると考えられる。

最後に、なぜ **there was** でヒットした複数名詞の多くが具体性のある名詞であるのかという④に疑問について考えたい。具体性のある名詞が単数ではなく複数になることでどのような違いが生じるのだろうか。たとえば、単数の **book** と複数の **books** とではどのような違いがあるのかを例にとりて考えてみるとわかりやすい。**book** のような具体名詞は、一般に数え上げることができるため、**books** のような複数形が可能になる。ただ、**BOOK** のデフォルトは一冊の **book** があれば十分である。むしろ、複数あることで数量などの別の解釈が入ってくるためにそのデフォルトから遠のく。その意味で、**book** が複数あることによって、**BOOK** のデフォルトとしての枠組みが弱まるように思える。それゆえ、具体性のある名詞が複数あることによって、その具体性は強まるというよりは、むしろ弱まると考えられる。つまり、具体性のある名詞が複数名詞になることで、その具体性が弱まることになるのではないかと考えられる。今先にも、時間軸上の一点としての捉えられる時間概念が、複数になることでその意味が緩和されるということを述べたが、同様のことがここにおいても当てはまるように思う。したがって、具体性のある名詞が単数名詞でなく、複数名詞として出現することが多いのは、その名詞が有するリアルさ、具体さを弱めるためであり、Bolinger (1977)のいう場面設定が施されたためであると考えられる。

上述の通り、当該の **there** 存在文は、聞き手にとって不確定な事柄を述べる際に使用される言語手段である。とりわけ、聞き手が実感できないような唐突な事柄を話題にする場合、**there** の付加によって、当該の話題を聞き手の意識にのぼらせ、さらに、その意識を話し手の「今・ここ」の位置である「現在」に向けるのではなく、「過去」に向けることで、いわば、その唐突感を和らげるための二重の策がとられてきた。そして、今回の具体性のある名詞が高い確率で複数名詞として出現するという現象も、こうした一連の「場面設定」の流れを汲んだ結果だと考えられ、その意味で、**there** 存在文で認められた一連の現象は、その「不確定性」を徹底するために講じられる手段であると考えられる。

5. 実例分析その2 (縮約形)

5.1 冠詞類の頻度

次に、縮約された場合どのような変化が認められるのか、上と同様の分析を試みる。以下は、縮約形における冠詞類の出現状況である。

表 8. 縮約形における冠詞類の出現状況

there's		there're	
不定冠詞	7593 (23.5%)	不定冠詞	11 (10.2%)
定冠詞	1091 (3.3%)	無冠詞	11 (10.2%)
無冠詞	877 (2.7%)	定冠詞	2 (1.8%)
合計	32209 (100%)		107 (100%)

表 8 より、全体として **there're** の出現数が極めて低いことがわかる。それに対し、**there's** は表 1 の **there is**, **there was**, **there are** に次ぐ頻度で出現している。冠詞類は、**there's** では不定冠詞 > 定冠詞 > 無冠詞の順に多く、**there're** については、総頻度が極端に低いことを別として、不定冠詞と無冠詞が同数

で、それに定冠詞が続いている。先の **there is** と比べて、**there's** では微妙な差ながら定冠詞が無冠詞の頻度を上回っているのが伺える。その意味で、縮約によって不定性、不確定性が弱まっているといえる。

次に、無冠詞および定冠詞と共起する名詞の単複の割合について調べてみる。

表 8. 複数名詞の出現状況

there's	
無冠詞 ϕ +sg.	610
無冠詞 ϕ +pl.	353
定冠詞 the +sg.	277
定冠詞 the +pl.	66

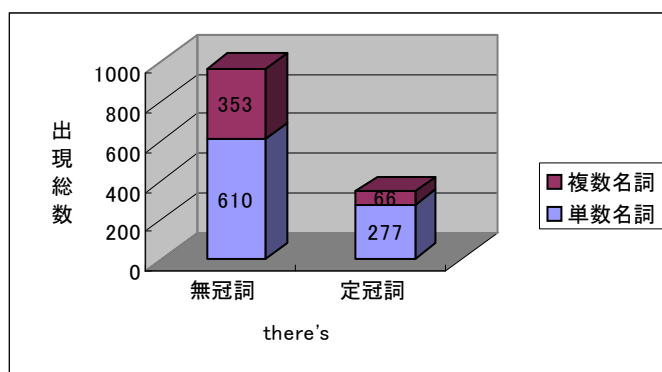


図 2. 複数名詞の出現状況

ここで注目したい点は、まず、複数名詞をとる用例である。とりわけ無冠詞においては、半数強の確率で複数名詞が選択されており、複数名詞と呼応する **there're** の出現数が少ない中、数の一致しない **there's** においてこれだけ明確な形でその違いが示されたことは興味深い。しかも、無冠詞の 353、定冠詞の 66 という数値は、**there's** 全体の出現率の中でそれぞれ 1.0%、0.2% を占め、その数は **there is** のときよりも上回っており、ここに縮約以前と以後の違いを見て取ることができる。

以上をまとめると、縮約形においても基本的には不定冠詞の出現が一番多いという意味で、**there** 存在文全体としては不定性が求められているといえる。しかし、定冠詞の出現率に関しては無冠詞を上回るという結果が出た。また **there's** では、単数名詞ではなく複数名詞の出現が目立ち、とりわけ無冠詞の場合、半数以上の確率で複数名詞になるという結果が出た。このことから、冠詞類の出現率や後続名詞の数においても、**there's** と **there is** との間には違いがあることがわかる。

5.2 名詞の出現頻度

続いて以上のような環境にあるときに、どのような名詞が、どの程度容認されるのか、分析、考察したいと思う。

表 9. 不定冠詞の共起語検索結果

不定冠詞	there's a [NN*]		there're a [NN*]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	LOT	683	NUMBER	3
2	BIT	74	LOT	2
3	COUPLE	66		
4	PROBLEM	57		
5	MAN	56		
6	CHANCE	53		
7	SORT	40		
8	PLACE	36		
9	CAR	33		
10	DANGER	32		

表 10. 無冠詞および無冠詞(pl.)の共起語検索結果

無冠詞	there's [NN*]		there're [NN*]		there's [NN2]		there're [NN2]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	LOADS	101	PEOPLE	2	LOADS	101	TRACES	1
2	PEOPLE	70	TRACES	1	THINGS	27	TENSIONS	1
3	ROOM	55	TENSIONS	1	BITS	9	MAPS	1
4	MONEY	28	NUMBER	1	TIMES	9	INDIVIDUALS	1
5	TIME	28	MAPS	1	MEN	8	EXAMPLES	1
6	THINGS	27	INDIVIDUALS	1	OTHERS	7	CONSTRUCTIONS	1
7	EVIDENCE	22	EXAMPLES	1	WOMEN	7	BITS	1
8	LIFE	22	CONSTRUCTIONS	1	KIDS	6		
9	HONEY	21	COMPUTER	1	ROADWORKS	6		
10	TALK	20	BITS	1	BAGS	5		

表 11. 定冠詞および定冠詞(pl.)の共起語検索結果

定冠詞	there's the [NN*]		there're the [NN*]		there's the [NN2]		there're the [NN2]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	QUESTION	24	LORRIES	1	CHILDREN	3	LORRIES	1
2	RUB	16			HOLES	2		
3	CHANCE	9			GOODS	2		
4	HOUSE	8			POLICE	2		
5	POSSIBILITY	8			DRIVERS	2		
6	MAN	6			KIDS	2		
7	PROBLEM	6			RABBITS	2		
8	BRONZE	5			YARDS	1		
9	SORT	5			DODGEMS	1		
10	TABLE	5			VILLAGES	1		

5.3 検索結果の分析

通常の there 存在文の結果と比較すると、縮約形になることで、具体性のある名詞が多く出現しているのがまず目につく。いかなる基準をもって具体性のある名詞と呼ぶかという問題は難しい問題であり、本論で明確に断わっているわけではないが、人を表す名詞、普通名詞、具体名詞などをその候補としている。その上で、補足資料にある there's における上位 50 位までの網掛け名詞の出現率(網掛け名詞総数 ÷ 上位 50 位までの出現頻度 × 100)をまとめると、以下ようになる。

表 12. there's における網掛け名詞の出現率と頻度

	出現率 (%)	出現頻度
不定冠詞 a	16.6	314
無冠詞 ϕ	30.7	221
無冠詞 ϕ +pl.	34.9	103
定冠詞 the	37.2	73
定冠詞 the+pl.	50	29

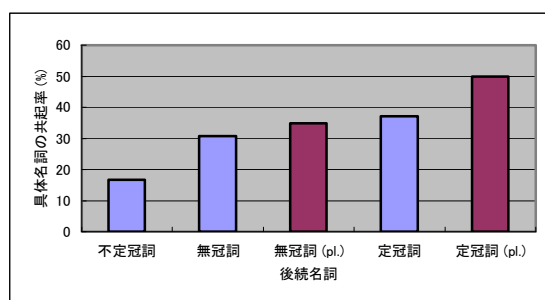


図 3. there's における網掛け名詞の出現率

ここにおいて明らかな通り, there's では後続の名詞が単数から複数に変わることによって, 具体性のある名詞の出現率が上がっている. しかも, 出現率の上昇率は, 無冠詞よりも定冠詞のほうが高い. また, 無冠詞と定冠詞での具体名詞の共起は, there's の場合, 定冠詞のほうが目立つように見えるが, 名詞を複数にすることで, 無冠詞でもその数が増える.

他方, 今回の調査では there're の出現頻度が極めて少ないことがわかった. 特に定冠詞に関しては, 出現数が 1 件だけという結果になった. また, there are において認められた不定冠詞は, ここでは a number of, a lot of の形で認められるだけで, 事実上はゼロということになる.

したがって, 以上のことをまとめると, 縮約形は there're よりも there's が一般的で, 共起する名詞の特徴としては, 縮約によって具体性のある名詞の出現頻度が上がるという特徴が挙げられる. とりわけ there is では, まったく見られなかった具体性のある名詞が there's で見られるようになった. また, 動詞の数が単数形であるにもかかわらず, 複数名詞をとるケースが there is に比べると多く見られた. さらに, その複数名詞は, 単数名詞以上に具体性のある名詞と共起する可能性が高いという結果が出た.

5.4 検索結果の考察

こうした結果を見る限り, 縮約という形態的变化が, 意味のレベルにおいても何らかの影響を及ぼしていることは否定できないように思う. もちろん, 定冠詞の割合が増えたり, 具体性のある名詞の出現数が増えたり,あるいは, 動詞の数と一致しない複数名詞の出現数が増えたりすることについては, there's が話し言葉やくだけた文章を中心に用いられるということが関係している点は否めない. 実際にそのような場面において談話の話題となるのは, 抽象性の高い名詞というよりもむしろ具体的な名詞であろう. また, 通常の規範から逸脱してしまうということは話し言葉においてはしばしば起こりうる現象である. したがって, 縮約形である there's において, そのような現象が認められるというは十分ありうるように思える. 実際に使用したコーパスの「チャート表示機能」を使ってその出典を調べてみても, 以下の図のように, 縮約形が話し言葉を中心に用いられ, 学術的なテキストにおいては殆ど用いられないことがないということが, はっきりと数字に示されている.

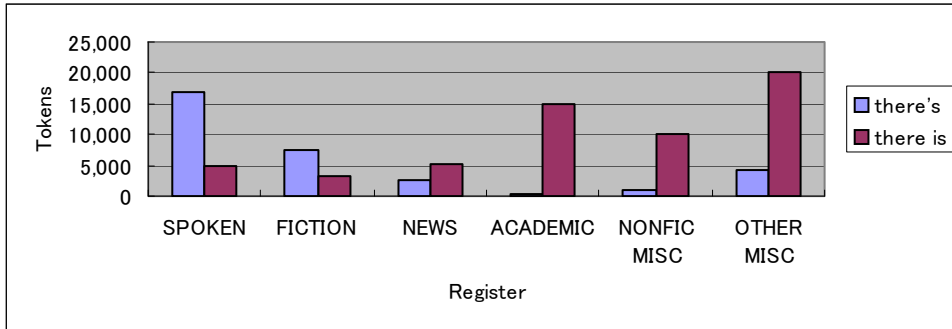


図 4. there's および there is の出典テキスト

しかし、「話し言葉」ということをキーワードにして全ての現象が説明されるわけではない。個別に見れば、確かに具体性のある名詞の出現や、名詞と動詞の数の不一致はそれで説明がいくように見えるが、全体として見たときに、なぜ不定性、不確定性の制約が縮約形で緩むのか、また、なぜ **there're** の出現数が極端に少ないのかといった問題を考えると、その説明の限界が見えてくる。

以下は、縮約の有無に従い、「出現頻度」、「冠詞類の出現状況」、「名詞の具体性の有無」を図式化したものである。しかし、このような順序に従って並べることで、ある興味深い構造が見えてきて、これらの問題を解くひとつの手掛かりが得られるように思える。

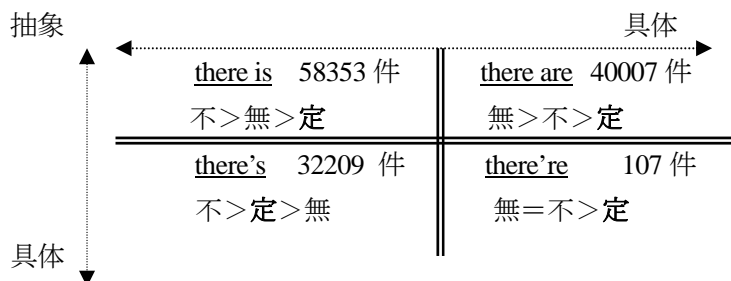


図 5. there 存在文と縮約形の関係

まず、このように配置することで、**there is** がすべての **there** 存在文においてそのプロトタイプの最重要候補になりうるようになる。そして、それを起点とすることで「出現頻度」、「冠詞類の出現状況」、「具体性のある名詞の有無」の問題についてひとつの説明図式が成り立つ。すなわち、**there is** は自らが起点となることによって、**there are**、**there's** という 2 方向に拡張していく構図が浮かび上がり、**there is** はこの 2 種類の構文と隣接することにより、形の面のみならず構文の振る舞いにおいても異なる拡張を示していると考えられる。

まず、出現頻度において **there is** は最も高い頻度を示し、**there are**、**there's** に移行することでその頻度が下がる。それは、プロトタイプである **there is** において要求されている不定性、不確定性の制約が緩和されるためであり、その緩和により、定冠詞の出現や具体性のある名詞の出現が認められたと考えられる。

また、**there're** の出現頻度が極端に低い理由についても同様の仕方で説明がいくように思う。たとえば、**there're** はこの 4 構文の中で具体性のある名詞と共に起する比率が高い。それは、不定性、不確定性の制約が最も緩和されているためであり、不定の事柄について言及することを本務とする **there** 存在文においては馴染みにくいことが出現頻度の低下に関係しているものと考えられる。

縮約によってその制約が緩和される理由としては、is という動詞そのものの形態が有する特性が、少なくとも there と融合することで弱まり、それによって語彙レベルにおいても環境の変化が認められたのではないかと考えられる。

それでは、なぜ there are よりも there's において、定冠詞や具体性のある名詞(しかも複数名詞として)がより多く認められるのであろうか。これは there is と隣接する there are および there's の違いが、単に動詞の数や縮約の有無の違いにとどまらないということを暗示しているように思える。たとえば本稿で取り上げた複数名詞の出現をここでもう一度思い出してみたい。とりわけ縮約形においてその現象が顕著に認められたが、それはこの複数名詞がもはや主語ではなく述語の振る舞いに近いことを示唆しているのではないかと思う。実際に次のような例文においては主格が認められない⁶。

- (2) a. "Sorry," said Cornelius. "Anyone else?" "There's us, of course. (BNC)
b. *There's we, of course.
c. Della! There's me, I was going, you dirty man! Della! (BNC)
e. * There's I and Jane.

少なくともこのような例文が主格をとると非文になるのは、縮約形において出現する名詞が主語としての役割をもはや担っていないためであると考えられる。つまり、縮約形で容認される名詞は意味上の主語というより述語としての役割に近く、いわゆる「非人称構文」に近づいているのではないかと考えられる。それに対し、縮約なしの通常の構文は、主格主語のいわゆる「人称構文」と意味的に接する部分が多いように思う。すなわち、存在構文とは非人称構文と人称構文を極にした連続体の中に位置する構文であり、there is / there's における振る舞いの違いがそのことを示唆しているのではないかと推測する。

6. 検索結果からの提案

石川(2005)の指摘にもある通り、頻度と重要度は別個に考えるべき事柄であって、コーパスで示されたデータを鵜呑みにして、そのまま言語教育に適用するならば、論理的な飛躍があることは否めない。ただし、EFL 教育における当該構文の取り扱いと、今回のコーパス調査によって抽出されたデータを比較してみると、幾つかの隔りがあるのも事実である。たとえば今回の調査データによれば、there 存在文では具体性のある名詞が殆ど現れず、とりわけ現在単数の there is においては、上位 100 語以内であってもそれが現れないという結果が出たことを述べた。大規模のバランスの取れたデータベースを用いた結果であるゆえ、こうした言語事実は軽視できないように思う。しかし、EFL 辞書や文法書を見ると、必ずしもこのような事実が周知されているとは言えない。以下の例文はその一例である。

- (3) a. There is an account book on the desk. (中島 1955:500)
b. There is a book on the table. (『新英和大辞典』)

⁶ また、動詞が be 動詞以外であるとき、すなわち、exist, lie, stand などの自動詞であっても、意味上の主語が複数名詞であるにもかかわらず動詞の数が複数形でマークされないという事例がコーパスにおいても見受けられる。

なお、意味上の主語が、主格ではなく対格で現れるという現象は、フランス語やドイツ語の存在構文においてより顕著に認められる。

これらの例は、学校文法においてしばしば模範とされている具体性のある名詞を意味上の主語に据えている例であり、筆者自身にも馴染みのある構文であり、とりわけ(3b)は、当該構文のプロトタイプとして思われがちな例である。しかし、これらの例文は今回の分析結果を見る限り、実際の言語使用を見ないで、恐らく学習者用に作為的に作られた構文であると推測できなくない。少なくとも、**there** 存在文のプロトタイプとしては、抽象性の高い名詞を意味上の主語とする例文を挙げるべきであり、具体性のある名詞をどうしても用いる場合、①定冠詞を避け、②動詞の時制や数を変えるか、③動詞を **was** とし、名詞を複数形にすることが望ましいといえる。ただし、あわせて、その殆どが話し言葉の事例として報告されていることを付け加えなければならない。また、具体性のある名詞を用いる場合、動詞の時制を **is** から **was** に変えること以外に、縮約形にするという方法があり、出現数から見れば、後者の手段を使用することがより一般的である。

また、縮約形ということで付け加えておくと、**there's** の出現数に対して **there're** のそれは極めて低かった。その意味において、**there is** が **there's** になるように、**there are** も **there're** になるとする従来型の説明だけでは不十分であり、少なくとも縮約形として複数形の **there're** は一般的でない点に留意する必要があるだろう。

7. まとめと展望

本稿では **there** 存在文とその縮約形を取り上げ、これらの構文において①どのような冠詞類がどの程度現れ、②さらにそれがどのような種類の名詞とどの程度共起し、③その際、複数名詞がどの程度生起するかについて、イギリス英語データベースである **BNC** を利用して分析した。

全体を通して、冠詞類は不定冠詞が、名詞は抽象性の高い名詞が好んで用いられていることがわかったが、縮約以前の形式においては、動詞の時制や数を過去および複数にすることによって、また名詞の数を複数にすることによって、具体性のある名詞が集中して出現していることがわかった。

また、具体性のある名詞は、縮約形においてさらに顕著に認められ、その際名詞の数は、縮約以前よりも複数名詞である確率が高いことがわかった。それによって **there is** とその縮約形である **there's** の違いが、単なる形態的变化ではなく、意味的・機能的変化を及ぼしていることが明らかになった。

本稿ではこうした制約を **Bolinger (1977)** のいう「場面設定」の更なる手段であると捉え、そうした現象が認められるそもそもの要因として、当該構文が非人称構文と人称構文を極にした連続体の中に位置する構文であることが関係しているのではないかとの提案を行った。このことは、これまで独立したものとして個別に扱われてきたこれらの諸構文間の関連を見出すことにつながるものと考えられる。

しかし、その全体像を明らかにするためには、当該構文が非人称構文と人称構文の特徴をどれだけ共有しているのかをより明確に示さなければならず、それについては筆者の今後の課題としたい。

引用文献・参考文献

荒木一雄・安井稔(編)(1992).『現代英文法辞典』, 東京: 三省堂.

Bolinger, D. (1977). *Meaning and form*. London: Longman.

Curme, G. O. (1947). *English grammar*. New York: Barnes & Noble, Inc.

Greenbaum, S. & Quirk, R. (1990). *A student's grammar of the English language*. Harlow : Longman.

Huddleston, R. D. (1971). *The sentence in written English: A syntactic study based on an analysis of scientific texts*. Cambridge: Cambridge University Press.

- 石川慎一郎 (2005). 「日本人児童用英語基本語彙表開発における頻度と認知度の問題: 母語コーパスと対象語コーパスの頻度融合の手法」, 『信学技報』(電子情報通信学会).
- Milsark, G. L. (1979). *Existential sentences in English*. New York: Garland Pub.
- 中島文雄 (1955).『英文法辞典』, 東京: 河出書房.
- 中村捷 (1980).「There 分裂文」『英語青年』(東京: 研究社). 125(10), 500-502.
- Quirk, R., et al. (1985). *A comprehensive grammar of the English language*. London: Longman.
- Rando, E. & Napoli, D. J. (1978). Definites in *there*-sentence. *Language*, 54, 300-313.
- Swan, M. (2005). *Practical English Usage*. 3rd Edition. Oxford: Oxford University Press.
- 竹林滋 他(編) (2002).『新英和大辞典』 第6版, 東京: 研究社.
- Walter, E. (Eds.) (2005). *Cambridge advanced learner's dictionary*. Cambridge: Cambridge University Press.

補足資料:there 存在文

1. 不定冠詞

不定冠詞	there is a [NN*]		there was a [NN*]		there are a [NN*]		there were a [NN*]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	NEED	337	LOT	344	NUMBER	883	NUMBER	167
2	DANGER	230	TIME	173	LOT	282	LOT	151
3	LOT	201	PAUSE	170	COUPLE	59	COUPLE	59
4	TENDENCY	163	SILENCE	147	VARIETY	58	SERIES	11
5	DIFFERENCE	147	MAN	126	RANGE	25	VARIETY	5
6	PROBLEM	132	NEED	104	SERIES	12	TOTAL	4
7	SENSE	127	KNOCK	102	HOST	8	SON	4
8	RISK	108	MOMENT	100	TOTAL	7	WOMAN	3
9	POSSIBILITY	99	BIT	61	MULTITUDE	6	RANGE	3
10	CASE	76	FEELING	61	HANDFUL	6	CHOICE	2
11	CHANGE	73	PROBLEM	59	GROUP	3	HANDFUL	2
12	LIMIT	71	TENDENCY	51	MINORITY	2	GROUP	2
13	CHOICE	61	DANGER	50	WEALTH	2	LACK	2
14	FEELING	57	SENSE	48	PAIR	2	DISTINCTION	2
15	RANGE	55	CASE	47	SHORTAGE	2	MAN	2
16	CHANCE	49	PERIOD	44	SET	1	RECORD	2
17	SHORTAGE	49	CHANCE	43	STRING	1	WISH	1
18	WAY	45	CHANGE	41	SOURCE	1	WILLINGNESS	1
19	LACK	43	WOMAN	41	SCORE	1	WARRIOR	1
20	KIND	42	HINT	39	MONTH	1	WALL	1
21	PLACE	42	GAP	37	PROFUSION	1	VIDEO	1
22	STORY	41	NOTE	36	PROBLEM	1	TRIP	1
23	WEALTH	38	SMELL	35	POOL	1	TRANSGRESSION	1
24	CONFLICT	36	KIND	34	POLICEMAN	1	SHRED	1
25	RIGHT	35	SORT	34	PICTURE	1	TIN	1
26	DISTINCTION	34	LACK	33	MASTER	1	TIME	1
27	POINT	34	DIFFERENCE	32	MANGO	1	TAPE	1
28	GAP	33	FIRE	32	LIST	1	TAP	1
29	LINK	31	RISK	31	LACK	1	SWELL	1
30	QUESTION	29	SOUND	31	HELL	1	SUFFICIENCY	1
31	SORT	29	LIGHT	29	CONTINUUM	1	STRUCTURE	1
32	DEGREE	27	POSSIBILITY	27	COLLECTION	1	SPACE	1
33	MAN	27	LETTER	26	CHAIR	1	SEA	1
34	DEMAND	26	PICTURE	25	BUST	1	SCHOLARSHIP	1
35	GROUP	25	PLACE	24	BATTERY	1	SAFETY	1
36	SUGGESTION	25	TAP	24			RIVER	1
37	CONNECTION	24	MOVEMENT	23			RISK	1
38	WORLD	24	NOISE	23			RELATIONSHIP	1
39	CONTRACT	23	GROUP	22			REFERRAL	1
40	HINT	23	LOOK	22			REFERENDUM	1
41	TEMPTATION	23	MEETING	22			RECIPE	1
42	VARIETY	23	REASON	22			LUMP	1
43	POOL	22	WAR	22			NEST	1
44	SET	22	SERIES	21			NEED	1
45	MARKET	21	SUGGESTION	21			MORTGAGE	1
46	RELATIONSHIP	21	BOY	20			MINIMUM	1
47	DUTY	20	CAR	20			RADIO	1
48	FEAR	20	DELAY	20			QUEUE	1
49	RECOGNITION	20	LADY	20			QUARTER	1
50	PRICE	19	LIMIT	20			PROPOSAL	1
	TOTAL	3712	TOTAL	3389	TOTAL	1377	TOTAL	505

2. 無冠詞

無冠詞	there is [NN*]	TOKENS	there was [NN*]	TOKENS	there are [NN*]	TOKENS	there were [NN*]	TOKENS
DISTRIB	NOUN		NOUN		NOUN		NOUN	
1	EVIDENCE	480	SILENCE	190	PEOPLE	261	TIMES	160
2	ROOM	123	EVIDENCE	137	TIMES	256	REPORTS	129
3	SCOPE	76	BLOOD	65	PROBLEMS	168	PEOPLE	115
4	CONCERN	60	TALK	60	OTHERS	166	SIGNS	99
5	TIME	45	ROOM	52	SIGNS	133	PROBLEMS	83
6	TALK	45	TIME	46	THINGS	121	OTHERS	78
7	HOPE	38	TROUBLE	46	WAYS	166	TEARS	71
8	REASON	36	SPECULATION	41	PLANS	101	THINGS	58
9	PRESSURE	34	CONCERN	36	DIFFERENCES	99	FEARS	56
10	AGREEMENT	32	MONEY	30	EXCEPTIONS	85	RUMOURS	48
11	MONEY	32	MUSIC	22	OCCASIONS	76	MOMENTS	40
12	SPACE	32	WORK	21	DIFFICULTIES	75	MEN	36
13	UNCERTAINTY	28	MOVEMENT	19	FEARS	71	OCCASIONS	35
14	LIFE	27	AGREEMENT	18	AREAS	68	CALLS	32
15	DISAGREEMENT	25	WATER	18	CASES	58	DIFFERENCES	32
16	PROVISION	23	LAUGHTER	17	INDICATIONS	54	LIMITS	30
17	DOUBT	21	SNOW	17	LIMITS	51	INDICATIONS	26
18	WORK	20	FEAR	16	DANGERS	48	COMPLAINTS	25
19	DEBATE	18	DISAPPOINTMENT	15	REASONS	46	CHANGES	24
20	TRUTH	16	HOPE	15	ADVANTAGES	43	CRIES	24
21	CONFLICT	15	LOADS	14	GROUND	38	DIFFICULTIES	22
22	DANGER	15	NEED	14	OPPORTUNITIES	38	EXCEPTIONS	22
23	NEED	15	DISCUSSION	13	RUMOURS	38	PLANS	20
24	SPECULATION	15	UPROAR	13	PLACES	36	CHILDREN	18
25	COMPETITION	14	LIFE	12	EXAMPLES	35	CASES	17
26	CONFUSION	13	PEOPLE	12	MOMENTS	35	LOADS	17
27	POWER	13	SCOPE	12	SIMILARITIES	34	WAYS	17
28	ACCESS	12	DARKNESS	11	CHILDREN	31	PLACES	16
29	CAUSE	11	OPPOSITION	11	CIRCUMSTANCES	31	PROTESTS	16
30	INFORMATION	11	SPACE	11	RULES	31	LIGHTS	15
31	WATER	11	ANGER	10	INSTANCES	28	SUGGESTIONS	15
32	CONTINUIT	10	FOOD	10	SITUATIONS	28	RIOTS	14
33	CONTROVERSY	10	TRAFFIC	10	CHANGES	27	ROWS	14
34	DIFFICULTY	10	COMPETITION	9	REPORTS	27	AREAS	13
35	FOOD	10	CONFUSION	9	ELEMENTS	26	REASONS	13
36	LOVE	10	CRITICISM	9	WOMEN	26	SHOUTS	13
37	OPPORTUNITY	10	DANGER	9	MEN	25	ALLEGATIONS	12
38	REFERENCE	10	GLASS	9	QUESTIONS	25	BOOKS	12
39	SUPPORT	10	PRAISE	9	VARIATIONS	25	CLASHES	12
40	TROUBLE	9	SMOKE	9	ISSUES	24	DAYS	12
41	BLOOD	8	TENSION	9	LOADS	24	DEMANDS	12
42	INTEREST	8	ANXIETY	8	REFERENCIES	24	ELEMENTS	12
43	MERIT	8	CHAOS	8	DOUBTS	23	LINES	12
44	MUSIC	8	DISAGREEMENT	8	ARGUMENTS	22	PERIODS	12
45	PEACE	8	DOUBT	8	DISADVANTAGES	22	TRACES	12
46	RESISTANCE	8	ICE	8	ASPECTS	21	TREES	12
47	VARIATION	8	INTEREST	8	ALTERNATIVES	21	VOICES	12
48	FEAR	7	PRESSURE	8	GROUPES	21	FLOWERS	11
49	HELB	7	SUPPORT	8	HINTS	21	HOLES	11
50	LAND	7	CAUSE	7	LIMITATIONS	21	MOVES	11
	TOTAL	1756	TOTAL	1446	TOTAL	3562	TOTAL	2026

3. 無冠詞(pl.)

無冠詞pl.	there is [NN2]	TOKENS	there was [NN2]	TOKENS	there are [NN2]	TOKENS	there were [NN2]	TOKENS
DISTRIB	NOUN		NOUN		NOUN		NOUN	
1	MASSES	3	LOADS	14	TIMES	256	TIMES	160
2	PROBLEMS	2	PROBLEMS	3	PROBLEMS	168	REPORTS	129
3	THINGS	2	WOMEN	3	OTHERS	166	SIGNS	99
4	URNS	1	MEN	3	SIGNS	133	PROBLEMS	83
5	TOTES	1	KIDS	3	THINGS	121	OTHERS	78
6	TIMES	1	HOUSES	3	WAYS	116	TEARS	71
7	TEARS	1	CARS	2	PLANS	101	THINGS	58
8	SECTIONS	1	CAMP	2	DIFFERENCES	99	FEARS	56
9	RUMOURS	1	GUNS	2	EXCEPTIONS	85	RUMOURS	48
10	ROBBERS	1	CLOTHES	2	OCCASIONS	76	MOMENTS	40
11	RESTRICTIONS	1	CLEAKS	2	DIFFICULTIES	75	MEN	36
12	REASONS	1	LADS	2	FEARS	71	OCCASIONS	35
13	POINTS	1	OTHERS	2	AREAS	68	CALLS	32
14	PLUMS	1	WIRES	2	CASES	58	DIFFERENCES	32
15	PLANES	1	POLICE	2	INDICATIONS	54	LIMITS	30
16	PARTS	1	YOUNGSTERS	1	LIMITS	51	INDICATIONS	26
17	ODS	1	PRAWNS	1	DANGERS	47	COMPLAINTS	25
18	NIKIAS	1	PLACES	1	REASONS	46	CHANGES	24
19	JONAS	1	PILES	1	ADVANTAGES	43	CRIS	24
20	JOBS	1	PIGS	1	GROUND	38	DIFFICULTIES	22
21	HIGHLIGHTS	1	PERIODS	1	OPPORTUNITIES	38	EXCEPTIONS	22
22	GANGS	1	PEAS	1	RUMOURS	38	PLANS	20
23	FUNCTIONS	1	PARENTS	1	PLACES	36	CHILDREN	18
24	EXCEPTIONS	1	PACKS	1	EXAMPLES	35	CASES	17
25	DICTA	1	WEEKS	1	MOMENTS	35	LOADS	17
26	COUNTS	1	WASH-BASINS	1	SIMILARITIES	34	WAYS	17
27	CONCENTRATES	1	VOICES	1	CHILDREN	31	PLACES	16
28	COMMUNICATIONS	1	VISITORS	1	CIRCUMSTANCES	31	PROTESTS	16
29	CENTRES	1	TRAVELLERS	1	RULES	31	LIGHTS	15
30	ARMS	1	TRACKS	1	INSTANCES	28	SUGGESTIONS	15
31	ADVANTAGES	1	TONS	1	SITUATIONS	28	RIOTS	14
32			TOILETS	1	CHANGES	27	ROWS	14
33			TIMES	1	REPORTS	27	AREAS	13
34			THI	1	ELEMENTS	26	REASONS	13
35			THEFTS	1	WOMEN	26	SHOUTS	13
36			SUNBEAMS	1	MEN	25	BOOKS	12
37			SUGGESTIONS	1	QUESTIONS	25	ALLEGATIONS	12
38			STUDIES	1	VARIATIONS	25	CLASHES	12
39			STRANGERS	1	ISSUES	24	DAYS	12
40			STEAKS	1	LOADS	24	DEMANDS	12
41			STABBINGS	1	REFERENCES	24	ELEMENTS	12
42			SPIDERS	1	DOUBTS	23	LINES	12
43			SONGS	1	ARGUMENTS	22	PERIODS	12
44			SOLDIERS	1	DISADVANTAGES	22	TRACES	12
45			SLAUGHTERHOUSES	1	ASPECTS	21	TREES	12
46			SHIRTS	1	ALTERNATIVES	21	VOICES	12
47			SCHOOLS	1	GROUPS	21	FLOWERS	11
48			SANDWICHES	1	HINTS	21	HOLES	11
49			REPORTS	1	LIMITATIONS	21	MOVES	11
50			RATS	1	MOVES	21	STORIES	11
Total		35	Total	129	Total	3307	Total	1917

4. 定冠詞

定冠詞	there is the [NN*]		there was the [NN*]		there are the [NN*]		there were the [NN*]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	POSSIBILITY	82	SOUND	55	REMAINS	8	PEOPLE	4
2	QUESTION	67	TIME	13	PROBLEMS	5	CHILDREN	4
3	PROBLEM	46	POSSIBILITY	12	PEOPLE	4	BEGINNINGS	3
4	ISSUE	23	PROBLEM	12	CHANGES	3	HEADS	2
5	PROSPECT	20	MAN	10	BENEFITS	3	ANIMALS	2
6	DANGER	19	SMELL	10	PICTURES	3	MILLS	2
7	NEED	18	MATTER	8	CASH	2	PHOTOGRAPHS	2
8	FACT	17	QUESTION	8	CASES	2	REGIONS	2
9	OPPORTUNITY	17	BUSINESS	6	BANKS	2	NAMES	2
10	RISK	15	FACT	6	CHALETS	2	STORIES	2
11	POTENTIAL	14	FEAR	6	CREAM	2	WORDS	2
12	MATTER	13	LETTER	5	FACILITIES	2	SCALES	1
13	OPTION	10	NEED	5	LIBRARIES	2	SALE	1
14	COST	8	PROSPECT	5	DIFFICULTIES	2	ROOFS	1
15	DIFFERENCE	8	RUB	5	MAKINGS	2	RIDING	1
16	SOUND	8	EMERGENCE	4	NEEDS	2	MYRIADS	1
17	ASSUMPTION	7	FEELING	4	ONES	2	MULES	1
18	SUGGESTION	7	IDEA	4	QUESTIONS	2	MIRROR	1
19	VIEW	7	OPPORTUNITY	4	SOLUTIONS	2	RAZOR	1
20	EVIDENCE	6	SUGGESTION	4	TENSIONS	2	PROSPECT	1
21	CHOICE	5	CASE	3	WORDS	2	PRIZES	1
22	FEELING	5	CITY	3	NOTIONS	1	PRESS	1
23	KIND	5	CHANCE	3	NEWS	1	PRACTICALITIES	1
24	POINT	5	DANGER	3	CHAMPIONSHIPS	1	POTATOES	1
25	RECOGNITION	5	DAY	3	MOVES	1	PLANS	1
26	TIME	5	HEAD	3	MEN	1	PITS	1
27	ABILITY	4	HOUSE	3	MEMBER	1	PASSENGERS	1
28	AGE	4	KEY	3	MARGINALS	1	PASSENGER	1
29	ADVANTAGE	4	PICTURE	3	LOWLANDS	1	PAPERS	1
30	CASE	4	POETRY	3	LOVERS	1	PACIFISTS	1
31	CHANCE	4	RECOGNITION	3	LINES	1	OTHERS	1
32	EFFECT	4	RISK	3	DIFFERENCES	1	OTHER	1
33	HYPOTHESIS	4	SENSE	3	DETAILS	1	OPPORTUNITIES	1
34	IDEA	4	SILENCE	3	DESIGN	1	OBJECTS	1
35	IMPLICATION	4	WAY	3	DEMANDS	1	OBITUARIES	1
36	POSITION	4	ANSWER	2	CUPBOARDS	1	NOISES	1
37	RIGHT	4	APPLICATION	2	LEVELS	1	NEWSPAPERS	1
38	THREAT	4	ATTEMPT	2	LEISURE	1	MILL	1
39	CONCERN	3	BATH	2	LAYERS	1	MEMORIES	1
40	DEMAND	3	BUILDING	2	LAWS	1	MARKS	1
41	DIFFICULTY	3	BEGINNINGS	2	LAGOONS	1	LIVING	1
42	FACILITY	3	BEGINNING	2	KRAY	1	LIGHTS	1
43	FACTOR	3	BED	2	KEYS	1	LETTERS	1
44	LACK	3	CARD	2	JELLYFISH	1	LANDOWNERS	1
45	LIKELIHOOD	3	COLLECTION	2	INVESTORS	1	JOBS	1
46	NAME	3	BUTCHERS	2	INSTITUTES	1	ISLAND	1
47	PAIN	3	DEBATE	2	INSTANCES	1	INJURIES	1
48	PRIORITY	3	DESIRE	2	INFORMATION	1	INITIALS	1
49	PROMISE	3	DEVELOPMENT	2	INDIVIDUAL	1	HIRE	1
50	SENSE	3	DEVIL	2	IMPORTS	1	HENS	1
	TOTAL	628	TOTAL	360	TOTAL	135	TOTAL	116

5. 定冠詞(pl.)

定冠詞pl.	there is the [NN2]		there was the [NN2]		there are the [NN2]		there were the [NN2]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	TIMES	1	MASTERS	2	REMAINS	8	CHILDREN	4
2	SYMBOLS	1	REMAINS	2	PROBLEMS	5	BEGINNINGS	3
3	REDUCTIONS	1	BEGINNINGS	2	CHANGES	3	HEADS	2
4	MEETINGS	1	WOMEN	1	PICTURES	3	MILLS	2
5	ASHES	1	SWINGS	1	BENEFITS	3	PHOTOGRAPHS	2
6			SEARCHLIGHTS	1	CASES	2	ANIMALS	2
7			BEDS	1	BANKS	2	NAMES	2
8			RECORDS	1	CHALETS	2	REGIONS	2
9			POLICE	1	DIFFICULTIES	2	STORIES	2
10			PARENTS	1	FACILITIES	2	WORDS	2
11			NEWSAGENTS	1	LIBRARIES	2	WOLVES	1
12			MONDAYS	1	MAKINGS	2	WITCHES	1
13			HOUSES	1	NEEDS	2	VINES	1
14			GIRLS	1	ONES	2	TRACES	1
15			FIKI	1	QUESTIONS	2	TOURISTS	1
16			FLOOR	1	SOLUTIONS	2	TOBACCOS	1
17			DRUGS	1	TENSIONS	2	TEXTS	1
18			DOORS	1	WORDS	2	TERNS	1
19			CHILDREN	1	RULES	1	TENSIONS	1
20			CATTLE	1	RUINS	1	TALKS	1
21					RIGHTS	1	SUBJECTS	1
22					RESERVATIONS	1	STRAPS	1
23					RECORDINGS	1	STRAITS	1
24					REASONS	1	SPOTLIGHTS	1
25					REACTIONS	1	SIRENS	1
26					PROPHECIES	1	SHREDS	1
27					PROGRAMS	1	SHARES	1
28					CHAMPIONSHIPS	1	SCREWS	1
29					POLICIES	1	SCALES	1
30					POLARITIES	1	ROOFS	1
31					POEMS	1	PRIZES	1
32					PLAYERS	1	PRACTICALITIES	1
33					PARTIES	1	POTATOES	1
34					OVERHEADS	1	PLANS	1
35					OPPOSITES	1	PITS	1
36					OFFICES	1	MYRIADS	1
37					OFFENCES	1	MULES	1
38					NOTIONS	1	ALLOWANCES	1
39					MOVES	1	PASSENGERS	1
40					MEN	1	PAPERS	1
41					MARGINALS	1	PACIFISTS	1
42					LOWLANDS	1	OTHERS	1
43					LOVERS	1	OPPORTUNITIES	1
44					LINES	1	OBJECTS	1
45					LEVELS	1	OBITUARIES	1
46					LAYERS	1	NOISES	1
47					LAWS	1	NEWSPAPERS	1
48					LAGOONS	1	MEMORIES	1
49					KEYS	1	MARKS	1
50					INVESTORS	1	LIGHTS	1
	Total		Total		Total		Total	
		5		23		130		106

補足資料 2:縮約形

1. 不定冠詞

不定冠詞	there's a [NN*]		there're a [NN*]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	LOT	683	NUMBER	3
2	BIT	74	LOT	2
3	COUPLE	66		
4	PROBLEM	57		
5	MAN	56		
6	CHANCE	53		
7	SORT	40		
8	PLACE	36		
9	CAR	33		
10	DANGER	32		
11	DIFFERENCE	32		
12	KIND	29		
13	WAY	29		
14	NEED	28		
15	SENSE	28		
16	WAR	28		
17	WOMAN	28		
18	LETTER	27		
19	THING	27		
20	CHOICE	24		
21	NUMBER	24		
22	WORD	21		
23	HOUSE	20		
24	PICTURE	20		
25	TENDENCY	20		
26	TIME	20		
27	FIRE	18		
28	GIRL	18		
29	HOLE	18		
30	LOAD	18		
31	POSSIBILITY	18		
32	GAP	16		
33	LIMIT	16		
34	PIECE	16		
35	SPACE	16		
36	HELL	15		
37	LIST	15		
38	BOOK	14		
39	LADY	14		
40	MEETING	14		
41	STORY	14		
42	WILL	14		
43	BAR	13		
44	BUS	13		
45	CAT	13		
46	GUY	13		
47	SHOP	13		
48	BED	12		
49	CHANGE	12		
50	PHONE	12		
	TOTAL	2334	TOTAL	5

2. 無冠詞・無冠詞(pl.)

無冠詞	there's [NN*]	TOKENS	there're [NN*]	TOKENS	there's [NN2]	TOKENS	there're [NN2]	TOKENS
DISTRIB	NOUN		NOUN		NOUN		NOUN	
1	LOADS	101	PEOPLE	2	LOADS	101	TRACES	1
2	PEOPLE	70	TRACES	1	THINGS	27	TENSIONS	1
3	ROOM	55	TENSIONS	1	BITS	9	MAPS	1
4	MONEY	28	NUMBER	1	TIMES	9	INDIVIDUALS	1
5	TIME	28	MAPS	1	MEN	8	EXAMPLES	1
6	THINGS	27	INDIVIDUALS	1	OTHERS	7	CONSTRUCTIONS	1
7	EVIDENCE	22	EXAMPLES	1	WOMEN	7	BITS	1
8	LIFE	22	CONSTRUCTIONS	1	KIDS	6		
9	HONEY	21	COMPUTER	1	ROADWORKS	6		
10	TALK	20	BITS	1	BAGS	5		
11	TROUBLE	19			CHILDREN	5		
12	HOPE	18			STACKS	5		
13	CONCERN	16			WAYS	5		
14	LOT	16			LAWS	4		
15	WORK	16			LIGHTS	4		
16	BLOOD	15			MASSES	4		
17	STUFF	14			PROBLEMS	4		
18	WATER	14			CLOTHES	3		
19	SPACE	11			BLOKES	3		
20	SPECULATION	10			CARS	3		
21	BITS	9			AIDS	3		
22	COFFEE	9			JOBS	3		
23	FOOD	9			LADIES	3		
24	TIMES	9			PLACES	3		
25	MEN	8			REASONS	3		
26	MUCK	8			SHOPS	3		
27	OTHERS	7			STEPS	3		
28	WOMEN	7			SWEETS	3		
29	BREAD	6			WORDS	3		
30	DAD	6			YOUNGSTERS	3		
31	FOOTBALL	6			ARGUMENTS	2		
32	KIDS	6			AREAS	2		
33	PLENTY	6			APPLES	2		
34	ROADWORKS	6			ADVANTAGES	2		
35	SAFETY	6			BADGERS	2		
36	BRASS	5			BODIES	2		
37	BAGS	5			COUPLES	2		
38	CHILDREN	5			CORNFLAKES	2		
39	ICE	5			FOLKS	2		
40	LOVE	5			CROOKS	2		
41	STACKS	5			GOALS	2		
42	WAYS	5			CATS	2		
43	AIDS	4			GUYS	2		
44	BIN	4			HEAPS	2		
45	CHEESE	4			LADS	2		
46	FISH	4			LIZARDS	2		
47	GAS	4			MICE	2		
48	GRATITUDE	4			NOMES	2		
49	LAWS	4			NUMBERS	2		
50	LIGHTS	4			ONIONS	2		
	TOTAL	877	TOTAL	11	TOTAL	353	TOTAL	7

3. 定冠詞・定冠詞(pl.)

定冠詞	there's the [NN*]		there're the [NN*]		there's the [NN2]		there're the [NN2]	
DISTRIB	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS	NOUN	TOKENS
1	QUESTION	24	LORRIES	1	CHILDREN	3	LORRIES	1
2	RUB	16			HOLES	2		
3	CHANCE	9			GOODS	2		
4	HOUSE	8			POLICE	2		
5	POSSIBILITY	8			DRIVERS	2		
6	MAN	6			KIDS	2		
7	PROBLEM	6			RABBITS	2		
8	BRONZE	5			YARDS	1		
9	SORT	5			DODGEMS	1		
10	TABLE	5			VILLAGES	1		
11	FACT	4			VALUES	1		
12	MACHINE	4			TRANSACTIONS	1		
13	MONEY	4			TOPS	1		
14	TIME	4			THEATRES	1		
15	CHILDREN	3			SYSTEMS	1		
16	CAR	3			STRAITS	1		
17	BOTTLE	3			SHOPS	1		
18	BATTERY	3			SERVANTS	1		
19	ANSWER	3			SANDWICHES	1		
20	COST	3			RHYMES	1		
21	FOOD	3			RATES	1		
22	GARDEN	3			PYGMIES	1		
23	KETTLE	3			POTATOES	1		
24	LAND	3			INSURANCES	1		
25	MATTER	3			DOLPHINS	1		
26	OPPORTUNITY	3			DOGS	1		
27	POTENTIAL	3			DETAILS	1		
28	STUFF	3			CONTACTS	1		
29	THING	3			CONDITIONS	1		
30	WAY	3			POINTS	1		
31	ACCUSATION	2			PLIMSOLLS	1		
32	ADVERT	2			PICTURES	1		
33	BAG	2			PHOTOGRAPHS	1		
34	BONUS	2			PARTS	1		
35	BANDSTAND	2			OTHERS	1		
36	AIR	2			ONES	1		
37	AFTERMATH	2			NAMES	1		
38	BOY	2			MEN	1		
39	BRASS	2			MEGA&REHY:BUCKS	1		
40	BRUSH	2			MAGISTRATES	1		
41	BEACH	2			LEAFLETS	1		
42	CAKE	2			LANES	1		
43	CARVING	2			LAMPS	1		
44	CHALLENGE	2			FROGS	1		
45	CITY	2			FRIENDS	1		
46	CHILD	2			FIRES	1		
47	COUNTRY	2			FIGURES	1		
48	DANGER	2			EXPENSES	1		
49	DEVIL	2			ENCLOSURES	1		
50	DOG	2			ELMS	1		
	TOTAL	285	TOTAL	1	TOTAL	66	TOTAL	1